



「西南ゆりの会」発足十周年を祝して



西南学院大学学長
田 中 輝 雄

3 号	西南学院大学女子同窓会 (西南ゆりの会) 機関誌 1995年10月1日発行 発行人 内海昌子 福岡市早良区西新1丁目 西南学院大学同窓会内
--------	--

この度、西南学院大学女子同窓会「西南ゆりの会」では、発足十周年を迎えることと、まことにおめでとうございます。心からお祝いを申し上げますとともに、「ゆりの会」が女子卒業生の集いとして今後ますます会員相互の親睦を密にされ、特色ある活動を続けられますようにと祈ってやみません。

一九八六（昭和六十一）年四月二十日号の西南学院大学広報には、女子同窓会の発足が大きく報道されていま

す。「今、女性が輝き始めた——西南学院大学女子同窓会が発足」という見出しが、同年三月二十九日、設立総会が市内天神の国際ホールで開催され、一三〇人が集う盛況となりました。結成の目的として、会員相互の親睦・交流と自己研修、そして同窓会の活性化を図ることが挙げられています。私もその「旗揚げ」の会には出席しましたが、初代会長の渡辺由美さんは挨拶のなかで、会員の皆さんをはじめ、学院の関係の方々の協力のもと年一回の総会と

定期的に開催されています。この間、会の「実力」も着実につき、母校に対しても直接間接にご支援をいただいています。また、三年前からは機関紙「白ゆり」も刊行されており、役員のご努力と会員各位のご協力深い敬意と感謝を表したいと思います。わが大学は一九四九（昭和二十四）年開学以来ずっと男女共学でやってきました。最初は、女子学生といえば殆んど文学部（英文・外国語や児童など）のみでしたが、現在では五学部十学科に三一五〇名が在学しております。これらは全体の四五・三%に当たります。

そして今春の一年次生は本学史上初めて、女性の方が男性よりも多くなりました。（五〇・二%対四九・八%）。最近では社会科学系の学部にもどんどん進出しており、これは一般的の社会における「女性進出」の一端とも言えますが、近い将来、本学でも全体で五〇一五〇の比率となるのは確実でしょう。女子の卒業生も一万名を超えていました。

結成十周年という節目の年に当たり、記念の催しもいろいろ計画されていますが、近い将来、本学でも全体で五〇一五〇の比率となるのは確実でしょう。女子の卒業生も一万名を超えていました。

92.11.26 秋のつどい

92.11.26	秋のつどい • 本会通称を「西南ゆりの会」とすることに決定	90.11.10	秋のつどい • 講師・桑原敬一氏及び在福岡航空会社代表によるパネルディスカッション	89.11.11	秋のつどい • 講師・財津和夫氏	88.11.12	母校教授による公開講座 • 講師・中村栄子氏、宮原哲氏
93.11.6	機関紙「白ゆり」創刊 • 母校教授による公開講座	94.11.26	機関紙「白ゆり」創刊 • 講師・及能正男氏 学金支援開始	86.10.4	母校教授による公開講座 • 講師・高橋さやか氏、大内和臣氏	87.10.24	母校教授による公開講座 • 講師・門田見昌明氏

86.3.29 発会式、第1回総会
 木村英文氏の講演
 会長に渡辺由美就任
 86.10.4 母校教授による公開講座
 木村英文氏のビアノ独奏
 87.10.24 母校教授による公開講座
 88.11.12 母校教授による公開講座
 89.11.11 秋のつどい
 90.11.10 秋のつどい
 91.11.16 秋のつどい
 92.11.26 秋のつどい
 93.11.6 母校教授による公開講座
 94.11.26 母校教授による公開講座
 ☆その他ミニサロン19回開催

西南学院大学「ゆりの会」創立十周年を迎えて



西南学院大学同窓会会长

中牟田栄蔵



「西南ゆりの会」会長

内海昌子

創立十周年にあたつて

西南学院大学女子同窓会の創立十周年に当たり心よりお祝いを申し上げます。

昭和六十一年三月女子同窓会の親睦と相互扶助を目的として結成されました。女子同窓会は以来十年、その間、眞に母校愛に燃えた同窓生仲間の皆さんのが、手探りの中で情熱と衆知を傾けられ今日名実共に相応しい「西南ゆりの会」を育ててこられました。並々ならぬ皆さんのご苦労に対し心より感謝申上します。

翻つてみると、本会が結成された頃は活気溢れる社会情勢下、女性の地位の向上も認められる折、当時すでに七千人を超す女子同窓生が社会にあって西南レディーとしての能力を高く評価されていたと伺っております。

この様な時代の中で盛り上がった会の結成は、西南学院創立七十周年を記念する年にも当たり、女子同窓会の活動を展開するには特に相応しく時宜を得たものであつたと思ひます。会員のパ

ワー溢れる活動は、その年の十月には早速公開講座を開催し、以後毎年秋には女子同窓会「秋の集い」・「公開講座」・「ミニ・サロン」の開催などそのテーマも女性ならではのきめ細かな選択によって、自己研修と相互研鑽の場を提供されてきましたことは誠に素晴らしく感服致す次第でござります。

さて、時代は新世紀に向かって進んでいます。今大学同窓生六万人を数え、在学生にあっても半分が女子学生という時代になりました。女子同窓会の数が年々増えていく中、今までに築かれました組織を更に広められ、全体同窓会のこれから活性化のためにも更により良き活動を続けられますことを祈ります。

尚最後に女子同窓会を常に支えていた大先輩に対し、同窓会長としまして、敬意と深甚の謝意を表しお祝いのご挨拶と致します。

折しも今年は第二次世界大戦戦後五十周年にあたり、さまざまな記念行事を続けてこられたことを感謝いたします。

生活を多少とも知る者には、生活の何もかもが変わって豊かに、便利になります。たと思う反面、昨今の女子学生の就職状況を見るにつけ何が変わったのだろうと思わずいられません。たしかに

日本では婦人の参政権も、女たちをしばりつけていた家族制度の崩壊も、闘争によってタナボタ式に手にしたもの

メンツ（実力をつけること）の行動日程である」と示しているように、実力を身につけ、法制度の実質化のための具体的行動を起すことが必要だと思いまます。が、闘争ではなく、例えばどの

い勝ちとったものではなく、戦後の改革によってタナボタ式に手にしたものではありますが、やはり戦前戦中と苦しめられた女性が待ち望んでいたものであつたと思ひます。

また、近年は雇用機会均等法の制定、女子差別撤廃条約の加盟国となるなど、法制上は男女平等の精神が実現

したかに見えますが、現実は皆さんもご存知の通りです。日本の高度成長を支えた企業の収益重視の考えは、女子雇用労働者の結婚出産による退職、差別定年をおし進め、働く女性を縮めつけていて、女子の高学歴傾向によつて得られた能力や資質が生かされる機会が非常に少なくなっています。

さて、国連とNGOによる第四回世界女性会議が北京で開かれますが、行動綱領案第一章で「女性のエンパワーメント（実力をつけること）の行動日程である」と示しているように、実力を身につけ、法制度の実質化のための人種、性別、年齢等による差別をなくして平和で豊かな社会の実現を目指して参りましょう。

ユーバーシャードが開催された
今年、国際化という言葉をよく
耳にしました。そこで時代に遅
れまじと、この七月に文学部国
際文化学科（国際文化部）の部
長に就任された、高倉洋彰先生
を夏休みの閑散としたキャンバ
スにお訪ねしました。



高倉洋彰先生

学部は今！

『国際文化学科』

(文学部)

日本で最初の学科

十九年前、日本で最初の学科として生まれた国際文化学科は、国際化の時代とよばれる現代社会で活躍できる、国際的な視野と感覚、そして理解力をもった人材の養成にあたっています。

同じ文学部の中でも英文学科や外国语学科（英語専攻・仏語専攻）が文学や語学を中心にしているのに対し、国際文化学科は各国の文化とそれを形づくってきた背景に重点が置かれているそうです。現在約六百名（内、八割が女子）の学生が、世界各地域の言語や文学・歴史・思想などの多様な文化を、日本・中国・アメリカ・ヨーロッパ（フランス・ドイツ・ヨーロッパ思想）の各文化コースに分かれながら学んでいます。アメリカ文化コースはアメリカ文化と文化人類学とに分かれており、なかでも文化人類学は一番の人気。毎年七月に催されるオープンキャンパスでも、高校生の質問が集中するそうです。福岡の国際性からみると、韓国文化コースが無いのが残念とのことです。

比較文化の立場で国際理解



ちなみに、押し掛けた取材陣、卒業時には国際文化学科という名前すら聞くことはありませんでした。「こんなおもしろそうな学科があるのなら、今からでも再入学したいなあ……。今度こそ、きっと勉強するわ」などと思いつつ、発展を続ける西南

簡単ですが、先生によると、「国際」は言葉の問題だけでなく、相手の気持ちが理解でき、かつまた自國のことを相手に伝えられる自然な関係だそうです。お互いを比較でき、冷静にものごとを判断できて、そのうえで交流できる人こそが国際人と言えるようです。

学生のなかには、単位を取りつつ、休みを利用してアルバイトをしながら世界を渡り歩いている「つわもの」もいるとのことで、国際文化学科の理念の実践者だと語っておられました。私は言葉にとらわれすぎて、ともすれば言葉にとらわれすぎて、ともすれば

考古学が専門の先生が見据える将来は、ついに外へ向けて開かれてきた福岡の歴史性から、アジア地域を比較文化の立場から理解し研究する拠点大を目指されています。その一方で、キリスト教主義大学という点から、ザビエル以来の流れを踏まえたヨーロッパとの交流を視野に入れ、アジアのみでなく広く欧米地域にも目を開いていきました。

西南に来られて六年目の九大卒の高倉先生は、最初こそ、六大学野球の応援も九大に肩入れされていました。そうですが、今ではすっかり西南のファンとか。西南のような街中にとって、松の緑が残る静かな環境に恵まれ、学生もゆったりとして優秀だと、おだやかな口調でお話でした。

カンサムーマン④

波多江伸子さん

(外伝71期)



自分の足
でしつかり
歩く、自分
の目できち
んと見る、
それゆえに

ハントサムな

女性。今日は「サナトロジー」(死生学)という分野で執筆・講演・看護学校での講義と多方面で活躍の波多江伸子さんにお話を伺いました。

○まずサナトロジーについてお聞き

したいのですが。

——サナトロジーは死に対する学際的な学問です。「生きる喜びと死ぬ楽しみ」を色んな方面から学んでいます。

○実際にはどういう活動をなさっているのでしょうか。

——色々な職種のがん経験者や終末

期医療に関心のある人達で、ある会を作っています。それは先の計画を立てるのではなく、「今を大切にお互いに愚痴をこぼさず励まし合い、

身きれいにして美味しい物を食べよ

うというのです。

そのために看護婦、ソーシャルワーカー、画家、アロマセラピスト、牧師、神主、保険、行政関係の人など夫々の職業が役立っているんです。

○会の雰囲気はどうですか。

——大抵の人ががんになって良かっただと言えるようになるんです。人生を見直して、だらだら生きるのではなく人生の優先順位がはっきりするからでしょうね。

○どうして仏文科卒なのにそういうことに関心があるりなのでしょう。

——西南卒業後九大大学院で倫理学を専攻しました。そして結婚後に甲状腺のがんになり声が出すに何年か悩みました。夫の助言もあり、かえって思い切り声を出すように努め、今は講演も出来るようになりました。私自身の経験をきっかけに末期医療を考えるようになったのです。

いつも新しい夢を追いかけ世の中になかをしかけて行きたいと、仲間、ネットワーク作りをなさっている波多江さんご自身の目がとてもきらきらと輝いていました。

著書に「モルヒネはシャーベットで一家で看取つた死」海鳥社、「カーテンコールが終わるまで」やさしい死生学」海鳥社、他。

●九年前の新聞記事より●

男性が主役の大学同窓会と言えば、出たがり屋さんのスピーチと乾杯が通り相場だが、このほど母校

で開いた第一回西南学院大女子同窓会は、文化の薫り高いユニークな集いでした。

第一部は、母校教授による公開講座、手づくりのテ

イーパーティーを挟んで、

第二部は同校創立者C.

K・ドージャーの生涯を描いた「愛と剣と」(7日夜10時、RKBテレビ放映)を制作した木村栄文プロデューサーの苦労話やとつておきの話。

二代で参加したオールドガーレズを含めて約百人。会場は懐かしい「青春」時代、「これから女性の『持來像』」の話が尽きませんでした。

C・L・ホエリー院長が、新しい形の同窓会と集まつた女性のスタイルを評した「学院のニュールック誕生した」と門出を祝った

◇カンバのお札と御報告

創立十周年を前にして、皆様にカンバをお願いいたしましたところ、今回もまた多数の方々が御芳志をお寄せ下さいました。心から御礼申しあげます。

実は、私達女子同窓生にとって、忘れられない先生のお一人の中にA・グレーブス

先生がいらっしゃいますが、先生が本校教授であられた時、その永年の功績を讃えられて受与されました、勳四等瑞宝章を紛失され、再度交付を申請されました。

ところ、費用が十万円ほどかかるということで、カンバ金の中から「西南ゆりの

こと」で、カンバ金の中から「西南ゆりの」ところ、費用が十万円ほどかかるということで、カンバ金の中から「西南ゆりの

こと」で、カンバ金の中から「西南ゆりの」ところ、費用が十万円ほどかかるとい

卒業生の皆様お元気でお過ごしでいらっしゃいますか。日本では秋も深まり、紅葉の美しい時期を迎えた頃ではないでしょうか。こちらマニラでは雨季が終わり、日本の五月頃の気候を思わせる一番過しやすい季節に入りました。

私は平成四年度外務省専門職員採用試験に合格し、西南学院大学大学院法学研究科卒業の後、外務省に入省いたしました。三ヶ月の語学研修と本省の南東アジア第二課（ASEAN諸国担当）と国際機関第一課（世界貿易機構担当）において十ヵ月間の研修を終えまして、昨年六月からフィリピンのマニラで二年間の在外研修をしておりま

す。

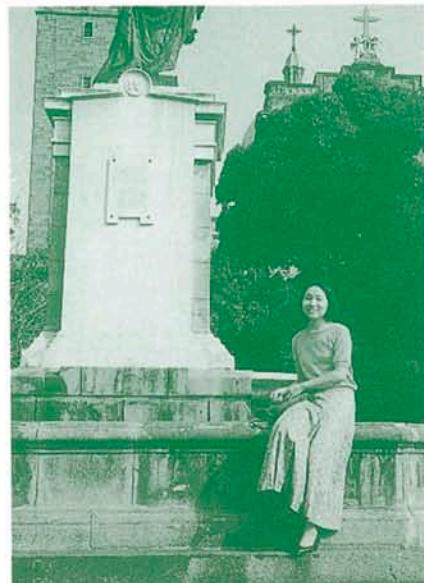
卒業生の皆様お元気でお過ごしでいらっしゃいますか。日本では秋も深まり、紅葉の美しい時期を迎えた頃ではないでしょうか。こちらマニラでは雨季が終わり、日本の五月頃の気候を思わせる一番過しやすい季節に入りました。

マニラからの近況報告

今 西 理 恵
(大学院法学研究科93期)

『海の向こうからこんなには』

外務省入省



イントラムロス内マニラ大聖堂前で

皆さん、福岡から飛行機でほんの三時間ほどで行くことが出来るマニラという異国の地名を聞かれて、その都市の風景が浮かんできますでしょうか。私もこ

混沌の中に見る活気

マニラも、他の発展途上国の都市と同様に、貧困、公害、都市へと流れる人々、インフラの不整備などの問題を抱え苦悩していますが、その一方でその混沌とした町の様子から、活気と将

来への飛躍を感じ取られます。この町に暮らしひめで、一年と半年余りが過ぎようとしていますが、どこかで居心地の悪さを感じつつも我ながらたくましく生活しているなと思っています。

(旧姓・澤井)

（白百合が夜の闇にぬれて
いまもここに花ひらく）

（またそぞろさびしい砂を踏む音
しみじみと蟋蟀の音）

春山行夫

リートの建物が道路の両脇に見えていた。空港の近くでは、一風吹けば壊れてしまいそうな木造の家が密集している地域や、排気ガスで煤けたコンクリートの建物が道路の両脇に見えていた。

今は研修生ですので、マニラ首都圏

たのですが、大使館のあるマカティーという地域に入ると、風景が一変し、背の高いビルが林立し、豪華なホテルや壁で囲まれた高級住宅街などがあるのです。なにかとんでもない所に来てしまったなという印象を持つと同時に、いたいことはどのようないい社会なのだ

くことが出来るマニラという好奇心が湧いてきました。

混沌の中に見る活気

マニラも、他の発展途上国の都市と同様に、貧困、公害、都市へと流れる人々、インフラの不整備などの問題を抱え苦悩していますが、その一方でその混沌とした町の様子から、活気と将来への飛躍を感じ取られます。この町に暮らしひめで、一年と半年余りが過ぎようとしていますが、どこかで居心地の悪さを感じつつも我ながらたくましく生活しているなと思っています。

私は英語を理解しますが、多民族国家であるために百以上の言葉が存在しているといわれています。私はそのうち憲法に国語として定められた、フィリピン語を語学学校で学んでいます。

学校での勉強はもちろんですが、ここでの様々な経験を通じて、また庶民の人達の生活に実際に触れてみると、多くのことを学ばせてもらっています。まだ第一歩を踏み出したばかりですが、相手の国の人々と気持ちを通り合わせながら仕事ができればと思っています。残り少ない研修期間ですが、色々なものを見て、他の国にも足を運び、自分に刺激を与えていきたいと考えています。

ひろば

ほさんの十日間でした。

神屋 みほ（文英80期）

「オールナイトニッポン」を聞きながら受験勉強をし、サイモン&ガーファンクルの歌に未知の国への夢をふくらませた学生時代。「国際化」「インターナショナル」という言葉が素敵に響いていました。

高橋 恵子（国際文化82期）
結婚で愛媛県に来ましてもう六年になります。在学中は、英語に関する仕事なんて私にはとうてい無理と思っておりましたが、今、こちらでパートタイムで子どもたちに英語を、数人のアメリカ人とカナダ人に日本語を教えています。ですか

らカナダで活躍されている寺田さんの記事は大変興味深く読ませていただきまし

た。子育ても一段落して回りを見れば世の中「国際交流」の花盛り。福岡に居ながら、どんな海外のアーティストのコンサートへも行けるし、学生達は海外へ修学旅行に出かけるし、夢の方からこちらへやってきて次々と現実になってしまいます。

空襲で家も家族も失った母、三十八度最期の夜を過ごして飛び立つ特攻隊の人達。私の憧れた外国と両親達の世代との最初の出会いは、「夢」ではなく悲しい現実です。

永倉 雅（外伝70期）
一九九五年、八月十二日、今春オーブンしたばかりのシーホークホテルの会場。

幹事約三十名ワクワクドキドキしながら開場一時間前に集合しました。準備万端とは思いながらも、不安でした。

三十分もすると、受付け前方に人が集まりはじめ、互いに肩をたたきあい握手したり、もうすでに涙のこ対面シーンもありました。田中學長、中牟田同窓会会長、なつかしいゼミの先生方をお迎えし、広すぎるかとも思われた会場もほとんど一杯になりました。いよいよ

またさらに、西暦二千年＝三十周年との声もあがっています。

秋山 育子（児教52期）
毎年実行を決めている級会。今年は五月に昨年に続き京都で開かれました。昨年は桜、今年は新緑の中の級会でした。

京都に十年住み付いた中野さんが素晴らしいプランを立て下さる事で、来年も京都と何故か決まってしまいました。東京四人、アメリカ一人、九州八人、京都一人、計十四人でしたが、来年は欠席の方も是非出席を願っています。

遠見の大仏の屋根えこの花

りを見わたすと見覚えのある顔があそこにもここにも……。バックには同期の末

安君が今でも活動しているグランプリと

ユニアード福岡大会に、私も語学

腸か子宮の異常かはここでは分からぬが、このまま記念病院へ行つてください」と言われる。「子宮なんてそんな。まだ十五歳なのに。どうぞ盲腸でありますよう……」祈る。記念病院では真夜中だというのに、先生が待機して下さっていた。席者約二五〇名、出席の返事を頂きながら都合がつかなかつた五十数名、こんなに多くの皆様が集い、また盛会に終わることができ、幹事一同一〇〇%の満足感にひたっています。学校としても、このような同期の同窓会は初めてとのことで大変喜ばれました。

私もまた学生時代には知らなかつた夫よ先生も看護婦さんも前からの知り合いのように声をかけて下さる。たかが盲腸といふけれど、診断を下すのはそう容易ではないことを初めて深く認識し、医療に携わる方達の暖かさとプロ意識に感謝し、そして何より健康のあたりがたさを感じた、娘の盲腸手術でした。

私が、会場の雰囲気をより一層盛り上げてくれました。急速お願いした応援団のエール、皆で歌つた校歌。

少し時間が短かすぎたかもしません

午後の九時をまわっている。ぐつたりしている娘を乗せ、夜の道を運転する。救急病院でも、深夜で、患者さんもあふれて

いるのに、丁寧に親切に診て下さる。丁寧に

いた神戸の学生、夏休みをこのボランティアに当たたといふ市職員、断然若い人が多く、熱い情熱を分けてもらつたお

ボランティア（フランス語）として参加しました。ただの「話しが好き」のおばさんになりました。つむりが、メダルや聖火の説明文を翻訳したり、表彰式リハーサルのフランス語のアナウンスをしたり、「聞いてないよー！」の連続でした。けれど、「小学生の作文」は「フランス文学」に直されて返ってくるし、マイクを通して自分の声が流れのも心地よいし、と本当に「お金では買えない」経験を山ほどさせていただきました。ボランティアというのは、単に「人の為」にやるのではなく、「自分の為」にもやらせていただくのだと実感しました。

土井 光子（文英72期）
西南を卒業して早二十三年目の夏、福岡ではユニバーシアードが華やかに繰り広げられました。地元校区ではヨルダンを応援することが決まり、九大の留学生モハメドさん家族をお迎えして学習会を開いたり、選手達へのお土産に真心こめての押花の箸袋作りなど、着々と準備が進められてきました。

選手村での入村式、対面式にも出席し、

初めての出会いに胸をときめかせました。音と光の壮大なスペクタクルの開会式に感激しつつ、選手への熱い応援や交流を深めると共に、競技会場でのボランティアや閉会式でのパレードも貴重な体験でした。

数々の感動を分かち合い、平和の尊さを実感できたことは、いつまでも心に残ることであります。すばらしい出会いと樂しい思い出をありがとうございました。

尾崎 恵子（保専45期）

ある日、一人の紳士が研究室を訪ねてきました。

「僕はT・Tと申しますが、憶えておられますか？」といわれ、じっとその人の顔やそぶりをみて、私は「思い出しました！ 目のあいくるしい元気のいい子でしたね」と、二人は思わず笑いました。彼は幼稚園（若松教会）の第一回卒園生でした。五一歳になつたとか。昔話に花が咲きました。

いよいよ私は来年三月をもって、西南学院大学を退職いたします。約四十年間、幼稚園や大学にお世話になりました。沢山の学生に出逢い、幼い子とあそんだことが何にもましての「宝」と感謝しています。

私の授業は終始一貫絵画製作でした。学生たちといっしょにアイデアを練り、創造して制作したことはとても楽しい授業でした。今後は一人一人がもつっているセンスと創造性を人生の中で充分にいかしてほしいと願っています。

田代 貞枝（文英57期）

西南茶道部庵友会の皆様、お変わりありませんか？ 平成八年は茶道部創立四十周年にあたります。四十周年の記念行事を催すべく、実行委員会が発足し、準備をすめています。六月頃の予定ですが、その節は一人でも多く会員の皆様に参加して頂きたいと思います。（庵友会会員）

白井 紗子（文英63期）

ゆりの会の会報と秋のつどいの御案内

お送りいただき、ありがとうございました。会報が出るようになり、何か活気が出でたようですね。卒業女子学生のネットワークが作られていて、それがですか

しくなります。私もただのおばさんにならない様がんばります。

木森 ひとみ（法79期）

普段は同窓会関係に疎い私ですが、ゆりの会の会報をつらつらと読んでしまいました。

「白ゆり」ありがとうございました。おたかきました。目下、転居準備に追われたたふたと過ごしております。現在、満二歳の息子の語学教育と私自身のブランディングの為、近年、バンクーバーへの移住を考えております。夫が同行するか否かはわかりませんが（笑）。バンクーバー連の耳よりな情報がございましたら教えてください。

大町 紀子（文英77期）
「白ゆり」2号大変嬉しく拝見させていただきました。目下、転居準備に追われて参りました。いずれ「西南ゆりの会」東京支部などと夢のようなことを考えております。

蓮尾 誠子（短大英文61期）
「白ゆり」ありがとうございました。若い方々のご活躍を読ませていただき私も、考え方少し変えていきたいと思いまして。でもやはり自分の殻に閉じこもります。

木森 ひとみ（法79期）
普段は同窓会関係に疎い私ですが、ゆりの会の会報をつらつらと読んでしまいました。

田中 道子（短大英文83期）
東京支部総会も近年は女性の参加がふえて参りました。いずれ「西南ゆりの会」東京支部などと夢のようなことを考えております。

大町 紀子（文英77期）
「白ゆり」2号大変嬉しく拝見させていただきました。目下、転居準備に追われて参りました。夫が同行するか否かはわかりませんが（笑）。バンクーバー連の耳よりな情報がございましたら教えてください。

亀永 美智子（文英72期）

ほんとうに秋らしくなりました。毎年この時期、「秋のつどい」のこ案内をいたしました。毎年あります。四十周年の記念行事を深めると共に、競技会場でのボランティアや閉会式でのパレードも貴重な体験でした。

去年二月に結婚しました。新婚早々大病を患い二か月も離れ離れの不安な日を過ごしました。健康な時には当たり前となく、あの頃に戻るようで嬉しく思います。出席したり、所用などでキャンパスを歩くと、学生時代が、踏みしめた土の足元からよみがえってくるようです。

岩切 裕子（児教54期）

卒業して四十年、改めて驚いています。あつという間の四十年であつたようなん

加藤夕キさんを迎えて

西南ゆりの会創立第10周年 記念講演会の御案内

本年は西南ゆりの会創立10周年にあたります。つきましては左記のように、記念講演会ならびに懇親会を開催いたします。皆様お誘い合せの上ご出席ください。一般の方も歓迎。

記

日 時 平成七年十月二十八日(土)

午後二時半五時

(開場一時三十分)

会 場

アクロス福岡

会 費 I部 四階・国際会議場
II部 七階・大会議室

I部のみは無料、II部懇親会
参加者は六、〇〇〇円(当日会
場受付でお払い下さい)

プログラム

I部

・本学の現況と展望
田中輝雄本学学長

・男女合唱
西南シャントゥール

・記念講演

講 師 加藤夕キさん

Ⅱ部 懇親会
一般の方も是非ご参加ください

平成6年度収支報告

(平成6年4月1日~7年3月31日)

1. 収入の部

項目	収入額	備考
同窓会補助金	400,000	
講演会費	237,000	秋の集い会費 171,000 お祝い金 66,000
ミニ講座費	45,000	第18回ミニサロン 20,000 第19回ミニサロン 25,000
繰越金	4,727	前年度繰越金
その他の収入	156	普通預金利息
収入の部合計	686,883	

2. 支出の部

項目	支出額	備考
講演会費	205,881	秋の集い 懇親会費等
講師謝礼	50,000	秋の集い 講演及び演奏謝礼
ミニ講座費	66,725	ミニサロン講師謝礼、会場費、喫茶代
慶弔及び涉外費	29,000	他大学総会、懇親会出席祝金 及びお祝花代金等
通信費	118,111	秋の集い 案内葉書や切手代
印刷費	127,700	会誌白ゆり及び案内状、封筒等
会議費	36,000	役員会会場費及び事務所費
借入金	38,262	平成4年度借入金残返済
その他の支出	4,679	事務用品代金、コピー代金等
繰越金	10,525	
支出の部合計	686,883	

平成6年度「西南ゆりの会」事業報告

(平成6年4月1日~7年3月31日)

☆西南ゆりの会総会(平成6年6月9日)

西南学院大学同窓会当日に合わせて

☆第九回秋のつどい(母校教授による公開講座)

(11月26日)

講 師 及能正男本学教授

テーマ 「誰にでもわかる国際経済情勢」

・野口 儀さんによる独唱

会 場 西南学院大学本館4階会議室

☆第19回ミニサロン(平成7年3月24日)

講 師 エレジグデ・モハンメド氏
(九大農学部)

テーマ 「ヨルダンの国について」

☆フィリピン女子大生奨学金支援

☆「白ゆり」2号発行

☆九大松の実会及び福大有信レディス総会に出席

伊藤 麗子(文英57期)

英文五八期の齊田艶子さんの消息をござ
そんじの方は左記の伊藤までご連絡下さ
い。福岡市城南区有泉亭19-23

く氣もしますし、長い長い想い出の一一杯
つまつた四十年であったような気もしま
す。こんな事を思う事が年をとった事か
なと苦笑しています。人生終わるまで何
が起ころか、今もまさかと思うような現
実の中で日々をすごしています。

編集後記

○女子同窓会の幹事をここ数年手伝わさ
せていただいているおかげで、同窓の意
義、役割がわかり、私達の七十期生の同窓
会を二年がかりで準備することができま
した。

一、〇〇〇名程の新住所がわかり大学同
窓会に提出することができました。

どうか皆様も、ゆりの会の仕事も地味
な働きですが、一緒に手伝って下さいま
せんか。

○年に一度のゆりの会の集いに、毎年の
顔馴染みの中に、新顔に出会えることは、
会を運営する者にとって大変嬉しいこと

です。今秋はどうなたにお会いできるか、楽し
みてください。

「秋の集い」と「ゆり誌」に同窓生の熱
い思いを期待します。

(M)

連絡先＝梓書院(田村)

福岡市博多区上呉服町五-三〇

TEL〇九二・二七一・五五二八八
FAX〇九二・二七一・五五二六六